

Release Bulletin for InfoMaker 2017 R2 Japanese

InfoMaker® 2017 R2 Japanese

FOR WINDOWS

DOCUMENT ID: ADC20231-01-2017-01

LAST REVISED: March 27, 2018

Copyright © 2018 by Appeon Limited. All rights reserved.

This publication pertains to Appeon software and to any subsequent release until otherwise indicated in new editions or technical notes. Information in this document is subject to change without notice. The software described herein is furnished under a license agreement, and it may be used or copied only in accordance with the terms of that agreement.

No part of this publication may be reproduced, transmitted, or translated in any form or by any means, electronic, mechanical, manual, optical, or otherwise, without the prior written permission of Appeon Limited.

Appeon and other Appeon products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of Appeon Limited.

SAP and other SAP products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of SAP and SAP affiliate company.

Java and all Java-based marks are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates in the U.S. and other countries.

Unicode and the Unicode Logo are registered trademarks of Unicode, Inc.

All other company and product names used herein may be trademarks or registered trademarks of their respective companies.

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Appeon Limited, 1/F, Shell Industrial Building, 12 Lee Chung Street, Chai Wan District, Hong Kong.

目次

1	Release Bulletin	1
2	既知の問題	2
2.1	2017 R2 日本語版に関する既知の問題	2
2.2	リッチテキストエディタに関する既知の問題	3
2.3	(PDFLib を使用した) SaveAs PDF に関する既知の問題	4
2.4	SQL Anywhere に関する既知の問題	4
2.5	ライセンスに関する既知の問題	4
2.6	アンチウイルスツールに関する既知の問題	5
2.7	オブジェクトのオープンに関する既知の問題	5
2.8	OData に関する既知の問題	5
2.9	InfoMaker ランタイムパッケージーに関する既知の問題	5
3	Bug Fixes.....	6
4	SAP InfoMaker 12.6 との統合バグ修正.....	7
5	製品の互換性.....	8
6	サードパーティのコンポーネントとデプロイメント.....	9
6.1	Apache File	9
6.2	Microsoft Files.....	9
6.2.1	Visual C++ランタイムと Active Template Library.....	9
6.2.2	インクピクチャライブラリ.....	9
6.2.3	DirectX ランタイム.....	10
7	マイグレーション情報	11
8	ヘルプおよびその他の情報の入手	12
8.1	Technical Support	12
9	重要免責事項および法的情報	13
10	著作権 / 免責事項	14

1 Release Bulletin

この Release Bulletin には、Apeon InfoMaker® 2017 R2 日本語版の最新情報が記載されています。

Apeon InfoMaker 2017 R2 日本語版は、以下の OS をサポートします:

- Windows 7 SP1 (32bit / 64bit)
- Windows 8.1 (32bit / 64bit)
- Windows 10 (32bit / 64bit)
- Windows Server 2008 SP2 (32bit / 64bit) (実行環境のみサポート)
- Windows Server 2012 R2 (実行環境のみサポート)
- Windows Server 2016 (実行環境のみサポート)

2 既知の問題

既知の問題と回避策について説明します。

備考

Appeon® サポート契約を結んでいる場合は、Appeon サポートウェブサイトを使用して Knowledgebase の記事や解決情報を検索できます。Appeon サポートウェブサイト：<https://support.appeon.com> にログイン後、Knowledgebase を選択して検索を開始します。

2.1 2017 R2 日本語版に関する既知の問題

以下は、2017 R2 日本語版固有の問題です：

- ヘルプドキュメント(tutor_im.pbl を含む)は英文で表示されます。また F1 を押下するとヘルプのトップページに移動します。
- アプリケーション用に作成された実行ファイルを起動すると、メニューやツールバーのラベルおよびメッセージは英語で表示されます。
- フォームデータウィンドウで実行/プレビューすると、メニューのファイル、編集、行が英語に変更されます。
- RichTextEdit 機能として「組み込みリッチテキストエディットコントロール」を使用した場合に日本語文字がコントロール内に正しく表示されないことがあります。

次の機能は、InfoMaker 2017 R2 日本語版と以前のバージョンで動作が異なります：

- GetDateFormat / GetDateFormatEx API を使用して、以下の Windows レジストリから元号を取得します。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Nls¥Calendars¥Japanese¥Er
as
- MidA, RightA, および Trim 文字列関数は、旧バージョンと戻り値が異なりますが、2017 R2 日本語版での戻り値が本来の戻り値となります。
- LastPosA が新たに追加されます。
- DayName 関数が完全サポートされます。

2.2 リッチテキストエディタに関する既知の問題

新しい組み込みリッチテキストエディタには、以下の問題またはサポートされていない機能があります:

- Windows 10 では、特にグリッド、またはタブラのデータウィンドウでリッチテキスト編集スタイルのカラムを使用すると実行が遅くなります(以前より約 6 倍遅くなります)。この問題を回避するためには、フリーフォームデータウィンドウを使用してください。
- Windows 7 または 10 では、リッチテキストデータウィンドウのタイトルバーが true でタイトルが空の場合に、データウィンドウをマウスでスクロールすると、画面が再描写されます。この問題を回避するためには、タイトルバーを false に設定するか、タイトルバーが true のときはタイトルを設定します。
- リッチテキストエディットコントロールにテキストをコピーするとき、既定のフォントにならない場合があります。PowerBuilder 12.6 にも同じ問題があります。
- プレビューモードでは、リッチテキストエディットコントロールがフィールドを認識できないことがあります。
- InsertDocument 関数にファイル名の無いディレクトリを指定すると、実行時に PowerBuilder アプリケーションがクラッシュします。
- 2 つのリッチテキストエディットコントロールのデータを結合して、別のリッチテキストエディットコントロールにセットすることはサポートされていません。例えば、次のコードはサポートされていません。

```
ls_1 = rte_1.CopyRTF ( false )  
ls_2 = rte_2.CopyRTF ( false )  
ls_3 = ls_1 + ls_2  
ris = rte_3.PasteRTF (ls_3)
```

- リッチテキストエディットコントロールは、Courier および Courier New などの固定幅フォントにおいてスペース幅調整に問題があり、テキストが整列しません。
- Windows Server 2008 R2 上では、リッチテキストデータウィンドウを含んだウィンドウのオープンが遅くなる場合があります。
- データウィンドウプレビューでは、他のコントロールとは異なりリッチテキストデータウィンドウコントロールの内容は拡大縮小されません。
- データウィンドウ印刷時に、リッチテキストエディットコントロールの場所に応じて、不要な余白が上部に表示されます。
- CopyRTF 関数は PowerBuilder 12.6 では空文字列を返しますが、PowerBuilder 2017 ではリッチテキスト形式の設定内容を返します。
- 指定したディレクトリに英語以外の文字が含まれていると、SaveDocument は失敗します。

- リッチテキストエディットコントロールを印刷した場合、ページの右側にある線やテキストが切り捨てられる場合があります。
 - SetFont 関数または API によるフォントの設定はサポートされていません。
 - データウィンドウ上のリッチテキスト様式カラムを右クリックしても RButtonUp イベントは発生しません。
 - プレビューモードまたは印刷モードでカラムがフォーカスを失った場合に、左に揃えられるリスト記号 (主にカスタマイズされたイメージ) は完全に表示されません。
 - SelectText 関数は、最大 98303 の長さをサポートします。長さが 98303 を超える場合 SelectText はテキストを選択できません。
2. 古いリッチテキストエディタ(主に TX Text Control ActiveX の 2401 と 2402 のビルド)はリッチテキスト様式カラムでは機能しません。リッチテキストエディットコントロールとリッチテキストデータウィンドウオブジェクトでのみ機能します。これらすべてを処理するには、TX Text Control ActiveX X14(ビルド 2400)を使用する必要があります。

2.3 (PDFLib を使用した) SaveAs PDF に関する既知の問題

SaveAs PDF メソッド(PDFLib を使用した NativePDF!)は、データやイメージを操作する際にいくつかの問題があります:

- ネストされたレポート内のデータ(多くのケースは最後にネストされたレポート)は、PDF ファイルに印刷されずにブランクで表示されることがあります。この問題が発生した場合は、問題のあるネストされたレポートの高さを調節することで回避することができます。
- ピクチャコントロールのイメージを PDFLib を使用して PDF ファイルに保存すると、画質が低下します。

2.4 SQL Anywhere に関する既知の問題

SAP ウェブサイトからダウンロード可能な SQL Anywhere 17 トライアルバージョン(17.0.4.2053)には、既知の問題があります。この問題は、ストアプロシージャーを呼び出す際に影響します。この問題を回避するには SQL Anywhere 12, 16, または 17.0.4.2088 以降を使用してください。

2.5 ライセンスに関する既知の問題

オンラインライセンスを使用してアクティベートされた InfoMaker が、5 日以上 Apeon ライセンスサーバーと(マシンがインターネットから 5 日以上切断されたなどの理由で)接続されていない状態で、次回 InfoMaker 起動時もインターネット接続されていない場合はローカルライセンスがロックされます。ライセンスがロックした状態で同じアカウントを使用し InfoMaker にログインすると「既にログインしています。」というメッセージが表示されます。この場合はライセンス管理者に依頼し Apeon ウェブサイトを使用して問題のアカウントをログアウトさせる必要があります。ログアウト後は、同じアカウントを使用し再度製品をアクティベートしてログインすることができます。

2.6 アンチウイルスツールに関する既知の問題

PowerBuilder と PowerServer の動作が保証されているアンチウイルスツールは、AVG, Avira, McAfee, Avast, および Kaspersky になります。ここに記載されていない他のアンチウイルスツールは、PowerBuilder または PowerServer のインストールプログラムやランタイムファイルをブロックすることがあります。その場合は Appeon サポートチームにお問合せください。

2.7 オブジェクトのオープンに関する既知の問題

大規模で複雑なアプリケーションを InfoMaker 2017 R2 日本語版 IDE で開いた場合オブジェクト (メニューやユーザーオブジェクトなど) がゆっくりオープンします。

アプリケーションをフルビルドすると、オブジェクトのオープンするスピードを大幅に向上させることができます。

2.8 OData に関する既知の問題

この問題は、InfoMaker 12.6 および 2017 R2 日本語版で発生します。

トランザクションオブジェクトを OData サービスに接続すると、アプリケーションがクラッシュします。これは、InfoMaker IDE がインストールされていないコンピューターに、アプリケーションをデプロイした場合にのみ発生し、InfoMaker がインストールされているコンピューターでは発生しません。この問題は、「コマンド "regasm" が自動実行できない」という PowerBuilder ランタイムパッケージャーの制限によって発生します。以下の回避策を検討してください。

1. 「データベース インターフェイス」の「OData」チェックボックスを選択し、Sybase.PowerBuilder.OData Wrapper.dll を PowerBuilder ランタイムパッケージャーに含めデプロイします。
2. COM コンポーネントとしてアセンブリを登録します。

32bit OS では、次のコマンドを管理者権限で実行します: regasm Sybase.PowerBuilder.OData Wrapper.dll /tlb:Sybase.PowerBuilder.ODataWrapper.tlb / codebase

64bit OS では、同様のコマンドを実行しますが、デフォルトで C:\Windows\Microsoft.NET\Framework\ork64\v4.0.30319 にある 64bit の "regasm.exe" ファイルを使用します。

2.9 InfoMaker ランタイムパッケージャーに関する既知の問題

InfoMaker ランタイムパッケージャーは InfoMaker と一緒にインストールされません。PowerBuilder がインストールされている場合は PowerBuilder ランタイムパッケージャーを使用するか、Appeon サポートセンターに連絡して InfoMaker ランタイムパッケージャーのインストールプログラムを入手してください。

3 Bug Fixes

InfoMaker 2017 R2 JP **Build 1769** 以降では、以下のバグが修正されています。

- (Bug ID: 698, 741, 751, 752, 799) 計算カラムを含むデータウィンドウの SQL を変更した場合 (例えば、スペースを追加しただけの変更でも)、予期しない結果となります: (1) 計算カラムの DB 識別子が、"compute_####"に変更されます; (2) 計算カラムの全プロパティ(フォント,色,位置,表示可否)がリセットされます。

4 SAP InfoMaker 12.6 との統合バグ修正

Appeon の製品ラインは、SAP の製品ラインで修正されたバグも含まれます。Appeon InfoMaker 2017 R2 日本語版 GA の場合、SAP PowerBuilder 12.6 EBF 4166(2017 Q3 にリリース)のバグ修正も含まれています。

5 製品の互換性

InfoMaker は、多くのソフトウェア製品を使用して互換性テストを行っています。

表 5.1: InfoMaker でテストされたソフトウェア製品

ソフトウェアの種類または製品	互換性の説明
PowerBuilder	InfoMaker 2017 R2 日本語版は PowerBuilder 2017 R2 日本語版でテストしています。
SQL Anywhere	InfoMaker 2017 R2 日本語版は SQL Anywhere 12.0 から 17.0 でテストしています。
Microsoft .NET Framework	InfoMaker 2017 R2 日本語版の SaveAs Excel 12 機能は、Microsoft .NET Framework4.0 以上を必要とします。
Framework Oracle JDK	InfoMaker 2017 R2 日本語版は Oracle JDK 1.6 と互換性があります。

6 サードパーティのコンポーネントとデプロイメント

InfoMaker アプリケーションは、InfoMaker とあわせてインストールされるサードパーティコンポーネントといくつかの依存関係があります。

これらのコンポーネントのいくつかは、アプリケーションとともに配布することができますが他のコンポーネントはベンダーから入手する必要があります。

6.1 Apache File

InfoMaker に含まれている Apache File をユーザーに再配布できます。InfoMaker 2017 R2 日本語版に含まれる Apache code の使用または配布については PowerBuilder の無償ダウンロード規約にある Apache License 規約に従う必要があります。

アプリケーションが XSL-FO を使用してファイルを PDF として保存する場合は、Apache Formatting Objects Processor(FOP)のバージョン 0.20.5 が必要です。Apache FOP ウェブサイト(<https://xmlgraphics.apache.org/fop/>)を参照してください。

Apache Xerces ファイルの *xerces-c_2_8.dll* と *xerces-depdom_2_8.dll* は XML ウェブデータウィンドウのサポート、Web サービス用のデータウィンドウおよびデータストア、PBDOM、および SOAP クライアントの XML サポートに必要です。Xerces C++ Parser のウェブサイト(<http://xerces.apache.org/xerces-c/>)を参照してください。

6.2 Microsoft Files

InfoMaker の様々な機能を使用するために、実行するコンピューターに特別な Microsoft file が必要となります。

6.2.1 Visual C++ランタイムと Active Template Library

InfoMaker のコアランタイムファイルをデプロイするとき、ユーザーのコンピューターまたはサーバーにある *msvcr80.dll*(32bit のみ),*msvcpr80.dll*(32bit のみ),*msvcr100.dll* および *msvcpr100.dll* Microsoft Visual C++ ランタイムライブラリと Microsoft .NET Active Template Library(ATL)モジュールの *atl80.dll* (32bit のみ) および *atl100.dll* が必要です。

InfoMaker ランタイムファイルは、これらのファイルと依存関係があり、InfoMaker ランタイムを必要とするすべてのアプリケーションおよびコンポーネントに必要です。これらの DLL ファイルは \Program Files\Appeon\Shared\PowerBuilder フォルダーまたは DLL アーカイブウェブサイト(<http://dllidump.com> または <http://driverskit.com/>)から入手できます。

6.2.2 インクピクチャライブラリ

アプリケーションでインクエディットとインクピクチャコントロールを使用する場合は、*Microsoft.Ink*, *Microsoft.Ink.dll* , および *Microsoft.Resources.dll* が必要です。これらのファイルは Microsoft .NET Framework 3.5 以降に含まれており、.NET Framework をインストール後は C:\Windows\winsxs およびそのサブフォルダーに存在します。

6.2.3 DirectX ランタイム

InfoMaker アプリケーションでは、DirectX 3D レンダリングを使用して、より洗練された 3D グラフ(3D 円, 3D 横棒, 3D 縦棒, 3D 折れ線, および 3D 面)を表現できます。DirectX グラフスタイルでデータアイテムまたは、シリーズの透明度を使用してデータの表示を改善できます。

DirectX 3D レンダリングは DirectX ランタイムによって異なります。3D グラフのプロパティビューの[全般]タブで 3D レンダリングチェックボックスを初めて選択すると、InfoMaker が DirectX インストーラを起動します。インストーラを中止すると、3D レンダリングプロパティは無視されます。InfoMaker アプリケーションのエンドユーザーが、DirectX グラフスタイルを表示するためにはコンピューターに DirectX ランタイムをインストールする必要があります。DirectX ランタイムは、次の Microsoft ウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=2da43d38-db71-4c1b-bc6a-9b6652cd92a3&DisplayLang=en>

古いグラフィックドライバーを搭載しているコンピューターでは、dxdiag.exe を実行して DirectX がサポートされているかどうかを確認できます。このファイルは、通常 Windows\System32 ディレクトリにインストールされます。dxdiag.exe を実行するとオープンする DirectX 診断ツールの[ディスプレイ]タブで、Direct3D が有効かどうかを確認できます。

7 マイグレーション情報

InfoMaker の任意バージョンから InfoMaker2017 R2 日本語版に直接マイグレーションできます。

マイグレーションを行う前に、https://www.appeon.com/support/documents/appeon_online_help/pb2017r2/migrating_pb_appsにある「Migrating PowerBuilder Applications」ドキュメントを参照して、アプリケーションに影響を与える InfoMaker の変更情報を確認してください。

8 ヘルプおよびその他の情報の入手

この製品リリースの詳細については、製品ドキュメントサイトとオンラインヘルプを参照してください。

- 製品ドキュメント <https://www.appeon.com/developers/library/product-manuals-for-pb> は、ダウンロード可能な PDF 形式のドキュメントです。ウェブサイトには Whitepapers, Community Forums, Maintenance Releases および Support Content といった他のリソースへのリンクもあります。
- 製品のオンラインヘルプ

PDF ドキュメントを閲覧または印刷するためには、Adobe Acrobat Reader が必要となります。Adobe Acrobat Reader は、[Adobe](#) ウェブサイトから無償でダウンロードできます。

備考

製品リリース後に追加された重大な製品情報またはドキュメント情報を含む最新のリリースノートは製品ドキュメントウェブサイトから入手できます。

8.1 Technical Support

すべてのお客様は、再現可能なソフトウェアの欠陥に対して標準的な技術サポートを受けることが可能となります。Appeon サポートサイト:<https://www.appeon.com/standardsupport/>(ログインが必要)で標準のサポートチケットを使用することができます。

この製品のプレミアムサポートを購入した場合は、指定された認定サポート担当者は、Appeon サポートサイト:<https://support.appeon.com> (ログインが必要)で、技術的な問題や質問に対して支援を求めることができます。

9 重要免責事項および法的情報

Coding Samples

Any software coding and/or code lines / strings ("Code") included in this documentation are only examples and are not intended to be used in a productive system environment. The Code is only intended to better explain and visualize the syntax and phrasing rules of certain coding. Appeon does not warrant the correctness and completeness of the Code given herein, and Appeon shall not be liable for errors or damages caused by the usage of the Code, unless damages were caused by Appeon intentionally or by Appeon's gross negligence.

Accessibility

The information contained in the Appeon documentation represents Appeon's current view of accessibility criteria as of the date of publication; it is in no way intended to be a binding guideline on how to ensure accessibility of software products. Appeon in particular disclaims any liability in relation to this document. This disclaimer, however, does not apply in cases of wilful misconduct or gross negligence of Appeon. Furthermore, this document does not result in any direct or indirect contractual obligations of Appeon.

Gender-Neutral Language

As far as possible, Appeon documentation is gender neutral. Depending on the context, the reader is addressed directly with "you", or a gender-neutral noun (such as "sales person" or "working days") is used. If when referring to members of both sexes, however, the third-person singular cannot be avoided or a gender-neutral noun does not exist, Appeon reserves the right to use the masculine form of the noun and pronoun. This is to ensure that the documentation remains comprehensible.

Internet Hyperlinks

The Appeon documentation may contain hyperlinks to the Internet. These hyperlinks are intended to serve as a hint about where to find related information. Appeon does not warrant the availability and correctness of this related information or the ability of this information to serve a particular purpose. Appeon shall not be liable for any damages caused by the use of related information unless damages have been caused by Appeon's gross negligence or willful misconduct.

10 著作權 / 免責事項

© 2018 Appeon Limited. All rights reserved.

No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form or for any purpose without the express permission of Appeon Limited.

The information contained herein may be changed without prior notice. Some software products marketed by Appeon and its distributors contain proprietary software components of other software vendors. National product specifications may vary.

These materials are provided by Appeon for informational purposes only, without representation or warranty of any kind, and Appeon Limited shall not be liable for errors or omissions with respect to the materials. The only warranties for Appeon products and services are those that are set forth in the express warranty statements accompanying such products and services, if any. Nothing herein should be construed as constituting an additional warranty.

Appeon products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of Appeon. All other product and service names mentioned are the trademarks of their respective companies.